

2026年3月期 決算補足説明資料

2026年5月8日

パッケージの専門商社

証券コード：7504



株式会社 **高速**

1. 2026年3月期 決算概要 P. 3
2. 2027年3月期 通期連結業績予想 P. 11
3. TOPIX見直しに関して P. 13
4. ご参考:会社概要 P. 17
5. ご参考:企業価値向上の軌跡 P. 21

2026年3月期 決算概要

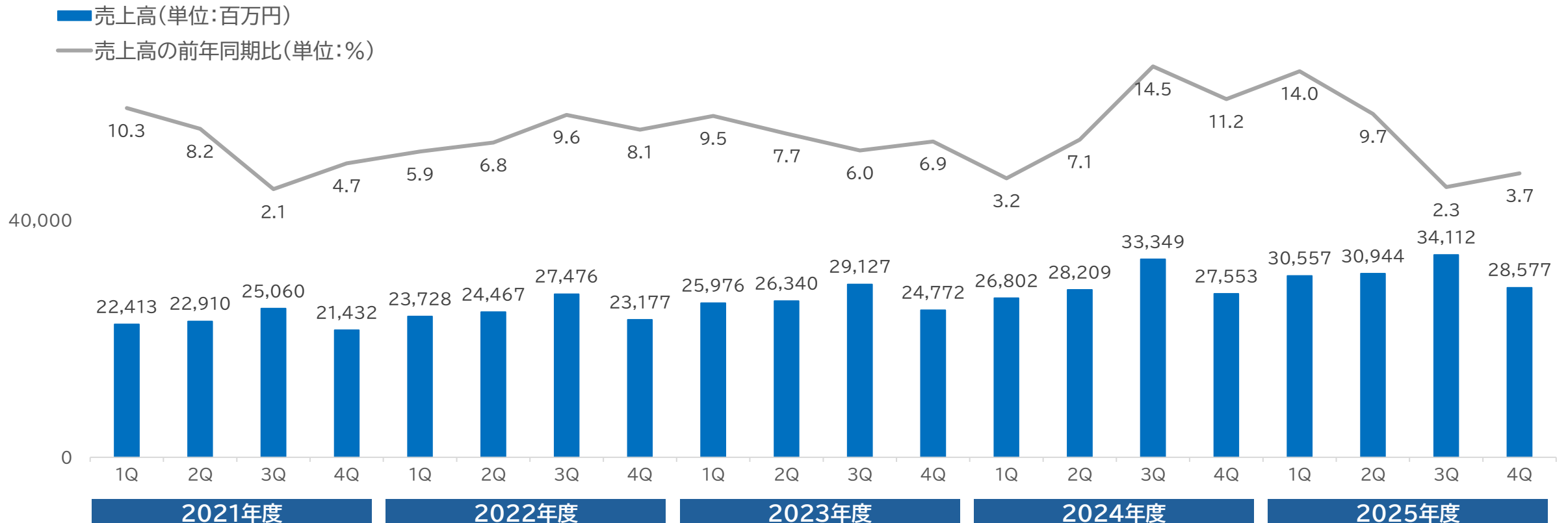
2026年3月期 連結業績概況(通期)

11期連続で過去最高売上高を更新。営業利益及び経常利益は8期連続での過去最高益、親会社株主に帰属する当期純利益は5期連続での過去最高益。2024年夏以降に開設した新規拠点開設等取引拡大及び価格改定が2025年度上期も大きく寄与。利益面は、人材投資、物流費等の増加をこなし先行投資を進めるなかで販管費をコントロールし、各項目において当初計画超での着地。

(単位:百万円)	2024年度 実績		2025年度計画		2025年度 実績			
	金額	売上比	金額	売上比	金額	売上比	前期比	計画比
売上高	115,915	100.0%	124,000	100.0%	124,191	100.0%	107.1%	100.2%
営業利益	4,532	3.9%	4,850	3.9%	4,865	3.9%	107.4%	100.3%
経常利益	4,840	4.2%	5,150	4.2%	5,238	4.2%	108.2%	101.7%
親会社株主に 帰属する純利益	3,465	3.0%	3,650	2.9%	3,764	3.0%	108.6%	103.1%
1株当たり純利益	179.11円	—	187.23円	—	192.76円	—	107.6%	103.0%

四半期売上高推移

2024年夏以降に開設した新規拠点開設等による取引拡大及び価格改定が2025年度2Qで概ね一巡したものの、3Q4Qも全社的な取引拡大で増収。2024年度メーカー各社にて発表された価格改定に関わる対応に割かれていた営業工数を、既存のお客様との取引拡大並びに新規取引拡大に振り向けており、今後の売上高増加への取り組みを継続。



2026年3月期 販管費の内訳(通期)

引き続き、売上高増加・出荷量増加に対応し人件費等が増加しているものの、賃上げを含む人材投資を進める一方で、1人当たりの生産性向上に努めることで、全体としての人件費増加を抑制。物流費についても、全体として過大にならないようコントロール。

(単位:百万円)	2023年度(通期)		2024年度(通期)			2025年度(通期)		
	実績	売上 構成比	実績	売上 構成比	前期比	実績	売上 構成比	前期比
売上高	106,216	100.0%	115,915	100.0%	109.1%	124,191	100.0%	107.1%
販売費及び一般管理費	16,660	15.7%	18,508	16.0%	111.1%	19,883	16.0%	107.4%
人件費	8,386	7.9%	9,259	8.0%	110.4%	10,113	8.1%	109.2%
運賃及び荷造費	2,676	2.5%	2,970	2.6%	111.0%	3,165	2.5%	106.5%
不動産賃借料	625	0.6%	688	0.6%	111.0%	726	0.6%	105.6%
減価償却費	668	0.6%	680	0.6%	101.8%	716	0.6%	105.3%
その他	4,303	4.1%	4,909	4.2%	114.1%	5,160	4.2%	105.1%

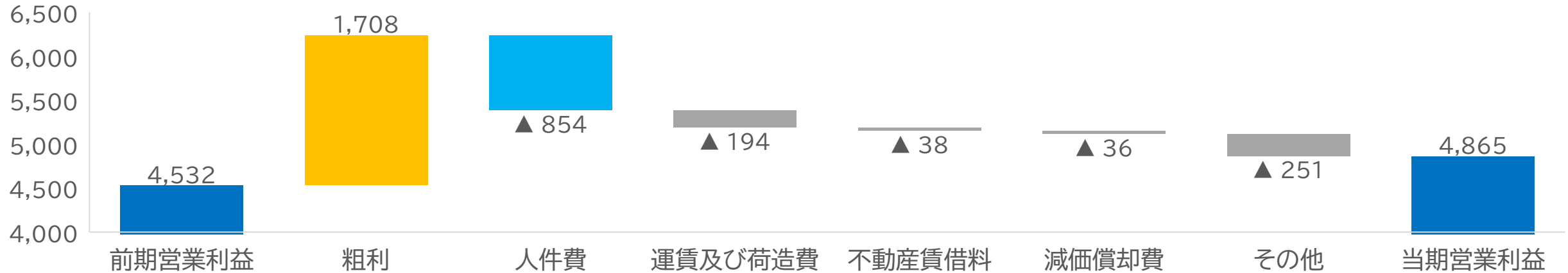
※人件費＝「給料及び手当」＋「賞与引当金繰入額」＋「法定福利費」＋「役員報酬」

※販管費の詳細は、各年度の有価証券報告書・決算短信をご参照ください。上記の表は、有価証券報告書・決算短信の数値を分類ごとに合算し整理したのになります。

営業利益増減要因(2026年3月期通期)

売上高前年同期比107.1%に対し、粗利前年同期比107.4%。販管費全体では前年同期比107.4%。前期比増減及び増減要因は以下のとおり。

(単位:百万円)



	主な要因
粗利	売上高増加に伴う粗利増加に加え、付加価値のある提案によりグループ会社も含め粗利増加
人件費	広島・姫路営業所などでの人員増加及び競争力維持向上のためのベースアップなど
運賃及び荷造費	増収に伴う出荷量増加によるもの
不動産賃借料	既存倉庫での業容拡大のため微増
減価償却費	通常の投資により微増
その他	売上高増加に伴う業務委託料増、一過性の採用等目的での広告宣伝費増

西日本営業拠点の取得(設備投資金額3,201百万円)(詳細は次ページ参照)に伴い、有形固定資産が大きく増加。また、法改正に対応する買掛金支払いサイトの変更が完了し、前期比で買掛金が減少。これらにより、現金及び預金は従来水準よりも減少。

(単位:百万円)	2025年3月末		2026年3月末		
	実績	構成比	実績	構成比	増減
流動資産	32,987	53.9%	30,726	48.6%	▲ 2,261
現金及び預金	8,178	13.4%	4,678	7.4%	▲ 3,499
売掛金	17,609	28.8%	18,020	28.5%	411
棚卸資産	6,729	11.0%	7,229	11.4%	500
固定資産	28,259	46.1%	32,452	51.4%	4,193
有形固定資産	20,491	33.5%	24,340	38.5%	3,848
無形固定資産	542	0.9%	470	0.7%	▲ 72
投資その他の資産	7,224	11.8%	7,642	12.1%	417
資産合計	61,246	100.0%	63,178	100.0%	1,931

	2025年3月末		2026年3月末		
	実績	構成比	実績	構成比	増減
負債合計	21,477	35.1%	20,662	32.7%	▲ 814
流動負債	19,824	32.4%	18,762	29.7%	▲ 1,061
買掛金	15,302	25.0%	13,287	21.0%	▲ 2,015
固定負債	1,653	2.7%	1,900	3.0%	247
純資産	39,769	64.9%	42,516	67.3%	2,746
資本金	1,724	2.8%	1,724	2.7%	0
資本剰余金	2,022	3.3%	2,193	3.5%	170
利益剰余金	36,466	59.5%	38,571	61.1%	2,104
負債純資産合計	61,246	100.0%	63,178	100.0%	1,931

※金額は表示単位未満を切り捨てて表示、%(パーセント)で表示する項目は、表示単位未満を四捨五入して表示しております。

外観



西日本営業拠点(大阪府)の概要

1. 取得の理由

西日本における業容拡大に伴い出荷能力及び在庫保有能力の増強を図るため

2. 取得資産の概要

(1)所在地:大阪府枚方市長尾谷町

(2)取得時期:2025年6月

(3)設備投資金額:3,201百万円(土地及び建物)

(4)建物延床面積:約11,000㎡

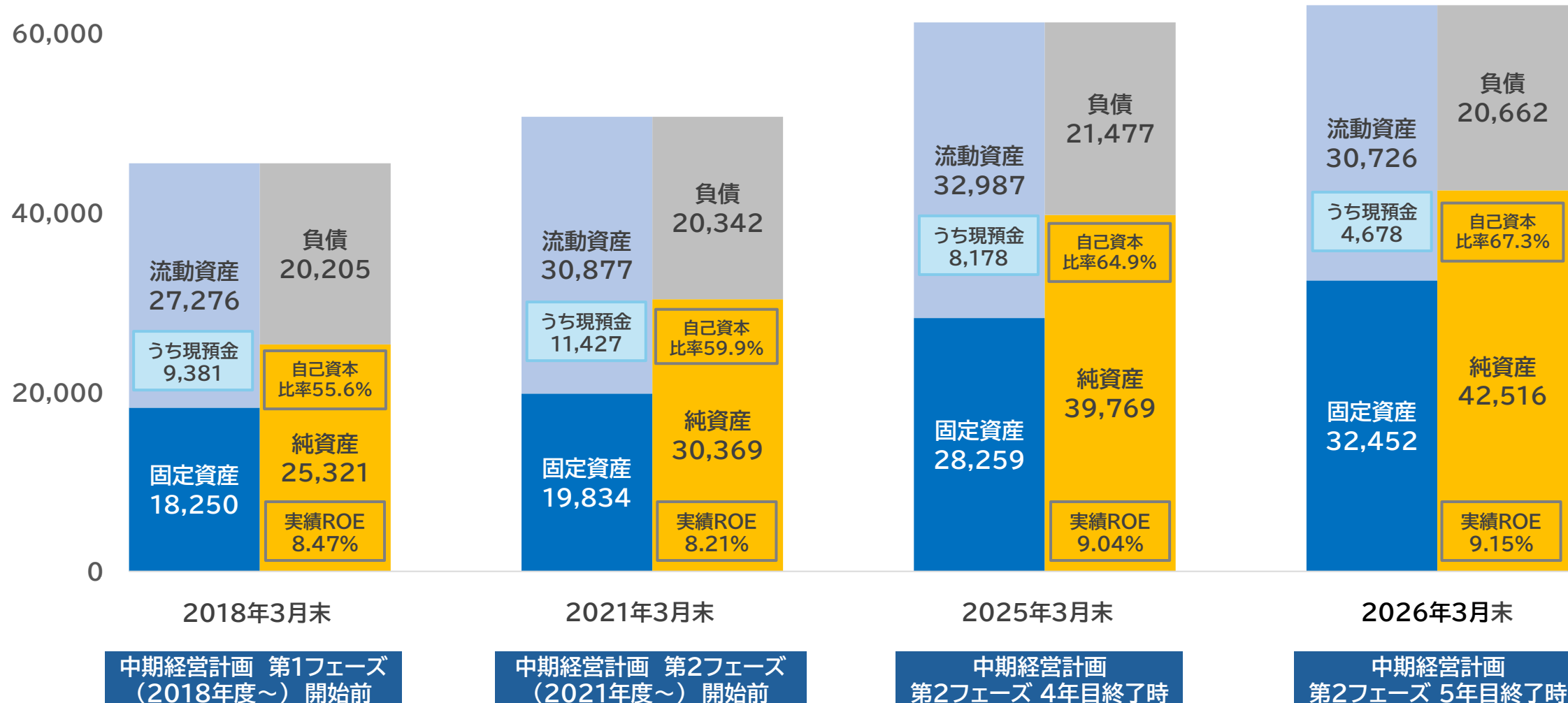
(5)営業拠点としての稼働時期:2027年1月稼働(予定)

※現在は、当社から他社に賃貸中

バランスシートの推移

現中長期経営計画開始前後におけるバランスシートの推移は、以下のとおり。利益の積み上げにより純資産が増加しながらも、創出したキャッシュを成長投資に配分し、ROEを維持・向上させながら、利益成長を実現。直近でも設備投資等への現預金の活用を進めており、現預金は月商対比0.5カ月の水準に。※月商比は、実績売上高による平均月商をもとに算出

(単位:百万円)



2027年3月期 通期連結業績予想

2027年3月期 通期連結業績予想

12期連続での過去最高売上高更新を目指す。売上高増加に伴う物流費等の増加をこなし、人材投資を進めながら、営業利益及び経常利益は9期連続での過去最高益、親会社株主に帰属する当期純利益は6期連続での過去最高益を見込む。既存拠点移転後の不動産売却など非事業資産の資金化と成長投資への活用を進めており、2026年度の当期純利益増加に寄与。2026年度の配当は、普通配当のみで年間120円を予定。

(単位:百万円)	2025年度 実績		2026年度 2Q累計業績予想			2026年度 通期業績予想		
	金額	売上比	金額	売上比	前期比	金額	売上比	前期比
売上高	124,191	100.0%	67,000	100.0%	108.9%	135,000	100.0%	108.7%
営業利益	4,865	3.9%	2,600	3.9%	104.3%	5,100	3.8%	104.8%
経常利益	5,238	4.2%	2,800	4.2%	104.9%	5,450	4.0%	104.0%
親会社株主に 帰属する純利益	3,764	3.0%	1,900	2.8%	104.8%	4,000	3.0%	106.3%
1株当たり純利益	192.76円	—	97.08円	—	—	204.18円	—	105.9%

TOPIX見直しに関して

TOPIX見直しに関して

TOPIX見直しに関わる当社概況、スケジュール及び浮動株時価総額は、以下のとおり。引き続き、浮動株時価総額の増加及びTOPIX残留に向けて努めてまいります。以下、JPX総研の資料(※)を当社状況に合わせ構成。浮動株比率については次ページ参照

<スケジュール>

2025年2月	2026年8月	2026年10月	2027年8月	2027年10月
株式売出し 浮動株比率の向上を 主眼に、当社から 取引先に働き掛け実行	8月の各営業日の 株価がTOPIX 初回定期入替の 算定基礎に	TOPIX初回定期入替 2025年3月期有報での 浮動株比率での判定 当社の場合0.45	8月の各営業日の 株価がTOPIX 見直し 再評価の 算定基礎に	TOPIX見直し 再評価 (継続基準) 2026年3月期有報での 浮動株比率での判定 当社の場合0.5(見込み)

浮動株時価総額の算定方法

浮動株時価総額 = 株価 × 上場株式数 × 浮動株比率

当社の
浮動株時価総額 = 株価 × 上場株式数 × 浮動株比率

※2026年10月定期入替時、0.45
2027年10月再評価時には、0.5(見込み)

なお、次期TOPIXの選定基準となっている「浮動株時価総額の累積比率」に用いられる各銘柄の「浮動株時価総額」には、8月の各営業日の「株価×上場株式数×浮動株比率」の平均値が用いられます。

※参考資料

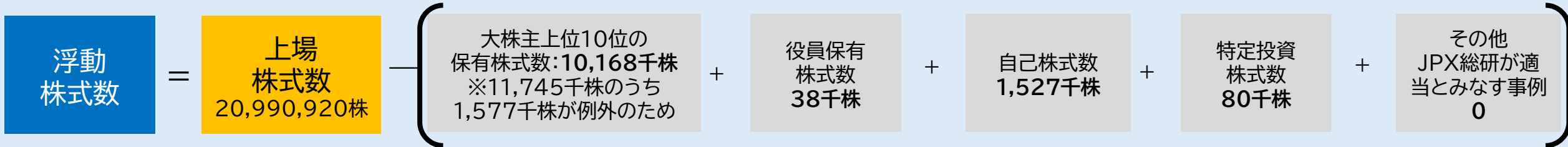
「浮動株比率に関するQ&A(2025/10/7版)」株式会社JPX総研 インデックスビジネス部
「TOPIX等の見直しの概要」株式会社JPX総研 2025年10月

浮動株比率

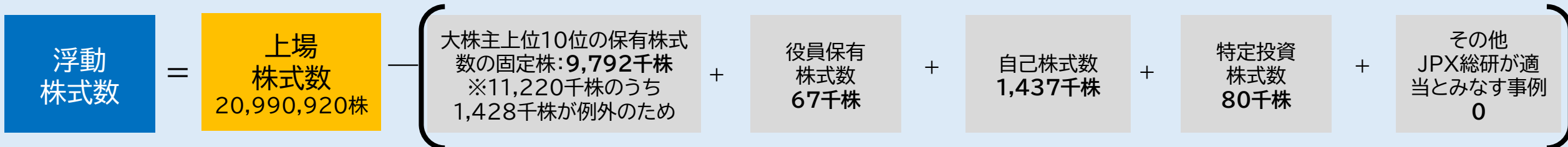
当社の浮動株比率は、2026年3月の株主構成において、0.5となることを見込んでおります。詳細は、以下のとおり。



2025年3月末株主構成 浮動株比率0.45



2026年3月末株主構成 浮動株比率0.5(見込み)



浮動株比率に関する詳細

2026年3月 固定株と想定される株式

氏名又は名称	所有株式数 (千株)	比率(%)	備考
大株主上位10位の保有株式数	9,792	46.65%	2026年3月末 ※ビービーエイチ フォー フィデリティー ロープライズド ストック ファンドを除く
役員保有株式数	67	0.32%	2026年3月末時点の役員保有
自己株式数	1,437	6.85%	2026年3月末時点
特定投資株式数	80	0.38%	他の上場企業が保有する特定投資株式(※大株主上位10位を除く)
その他JPX総研が適当とみなす事例	0	0.00%	
合計	11,377	54.20%	浮動株比率:0.5(「1-固定株比率」の値)を0.05ごとに切り上げ

2026年3月 大株主上位10位

氏名又は名称	所有株式数 (千株)	持株 比率(%)
管理信託(高速興産B号(株) 0700207号)受託者みずほ信託銀行(株)	2,191	10.4%
管理信託(高速興産C号(株) 0700208号)受託者みずほ信託銀行(株)	2,191	10.4%
ビービーエイチ フォー フィデリティー ロープライズド ストック ファンド	1,428	6.8%
日本マスタートラスト信託銀行(株)	1,222	5.8%
管理信託(高速興産A号(株) 0700206号)受託者みずほ信託銀行(株)	1,113	5.3%
光通信KK投資事業有限責任組合	821	3.9%
高速興産B号(株)	621	3.0%
高速興産C号(株)	611	2.9%
(株)七十七銀行	510	2.4%
個人株主	508	2.4%
合計	11,220	53.5%

<ご参考> 2025年3月 大株主上位10位

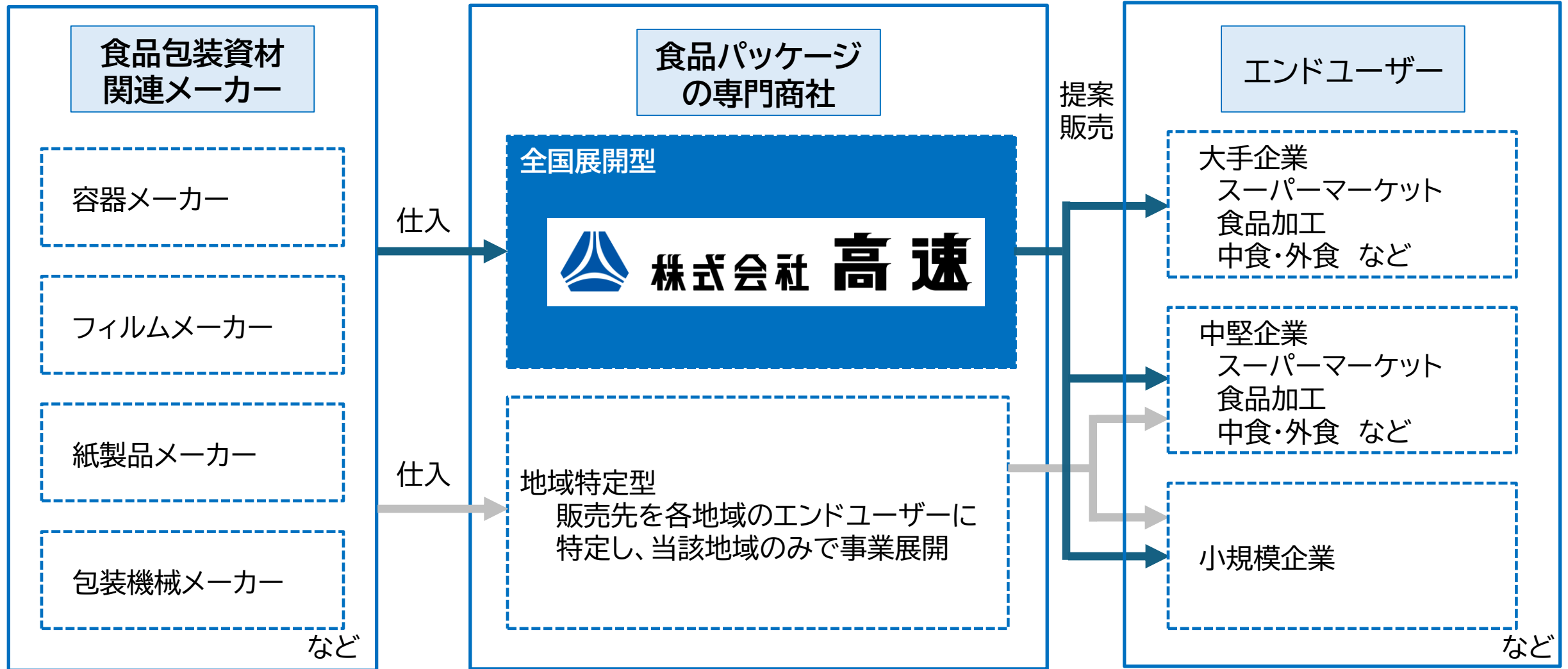
氏名又は名称	所有株式数 (千株)	持株 比率(%)
管理信託(高速興産B号(株) 0700207号)受託者みずほ信託銀行(株)	2,191	10.4%
管理信託(高速興産C号(株) 0700208号)受託者みずほ信託銀行(株)	2,191	10.4%
ビービーエイチ フォー フィデリティー ロープライズド ストック ファンド	1,577	7.5%
日本マスタートラスト信託銀行(株)	1,360	6.5%
管理信託(高速興産A号(株) 0700206号)受託者みずほ信託銀行(株)	1,113	5.3%
光通信(株)	1,060	5.1%
高速興産B号(株)	621	3.0%
高速興産C号(株)	611	2.9%
(株)七十七銀行	510	2.4%
個人株主	508	2.4%
合計	11,745	56.0%

※例外的に固定株とならないとみられる株主名義をグレーハイライトしております。

ご参考：会社概要

ビジネスモデル

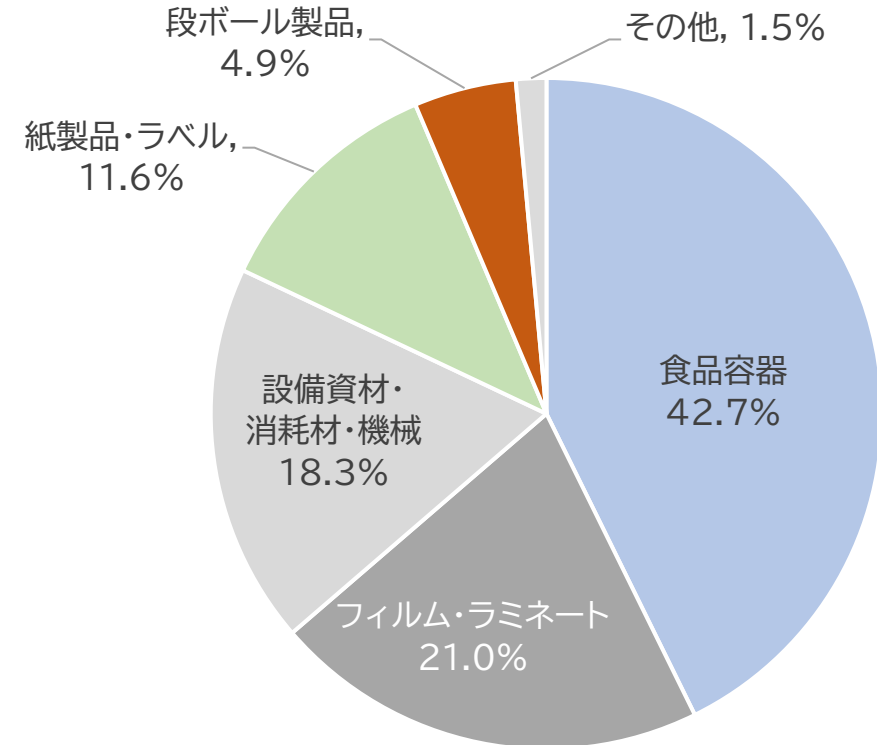
当社は、スーパーマーケット・食品工場のお客様とメーカーをつなぎ、「食の流通を支える」食品パッケージの専門商社です。



取扱商材



商品グループ別販売実績(2025年度)



当社は、食品トレーをはじめとした食品に関わる幅広い包装資材・消耗品を取り扱っています。食品容器を中心に幅広い食品包装資材や関連する機械を取扱い、総合的な提案が可能です。多様な商品の取扱いが業績ボラティリティ低下にも寄与しています。

株価指数への選定

「日経連続増配株指数」
構成銘柄への継続選定(3年連続)

「日経連続増配株指数」の算出・公表が開始された
2023年より、3年連続で選定されております。

外部からの評価



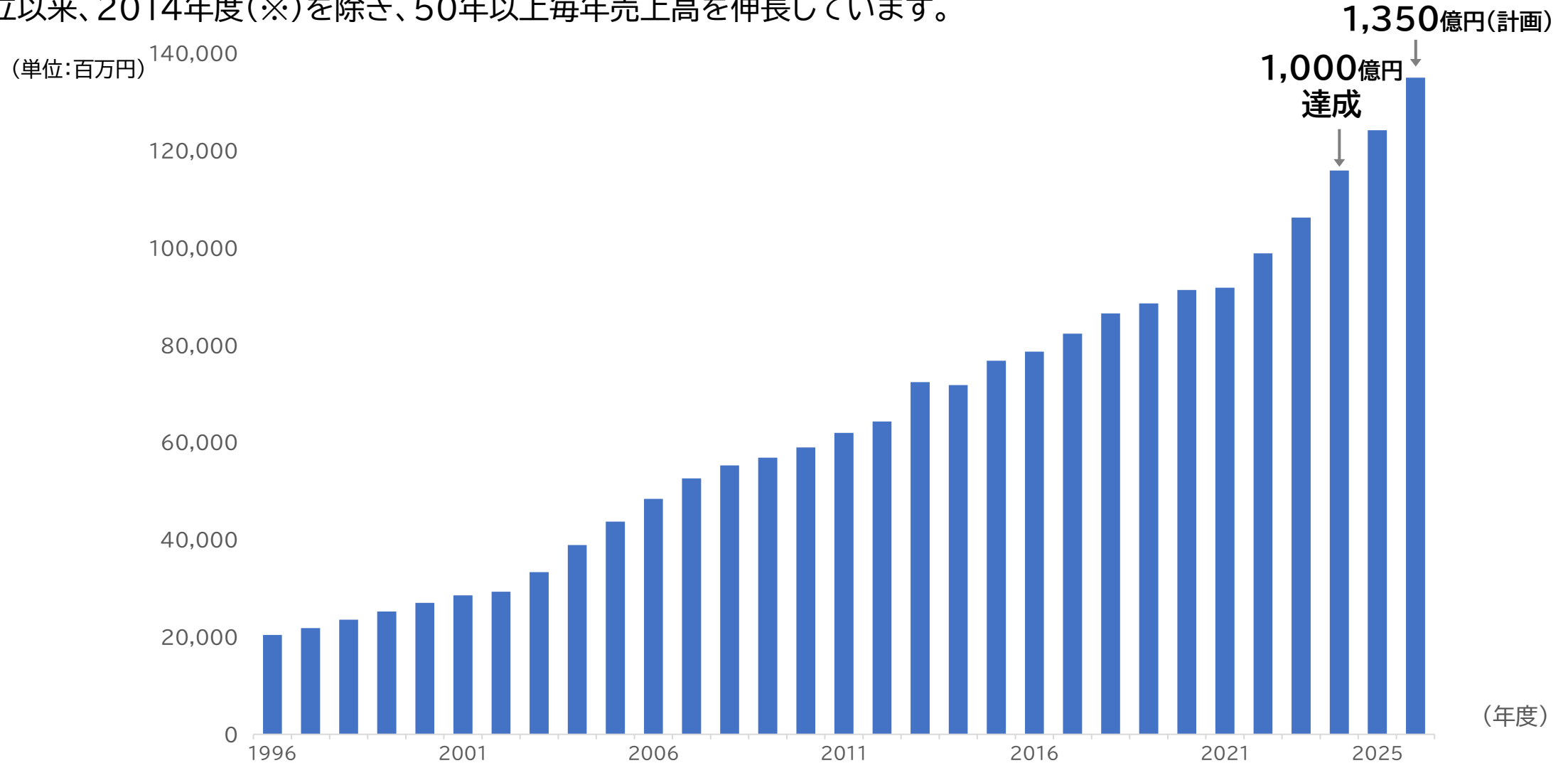
「気候変動」
「ウォーター」
Cスコア

当社は、2025年からCDPの回答を行い、
「気候変動」及び「ウォーター」の分野において、
いずれも「Cスコア」を獲得しました。

ご参考：企業価値向上の軌跡

業績推移 ~11期連続過去最高売上高を更新~

食品パッケージの継続的な需要に対し、既存のお客様との取引を継続・拡大し、さらに、新規のお客様との取引開始を積み重ね、設立以来、2014年度(※)を除き、50年以上毎年売上高を伸ばしています。

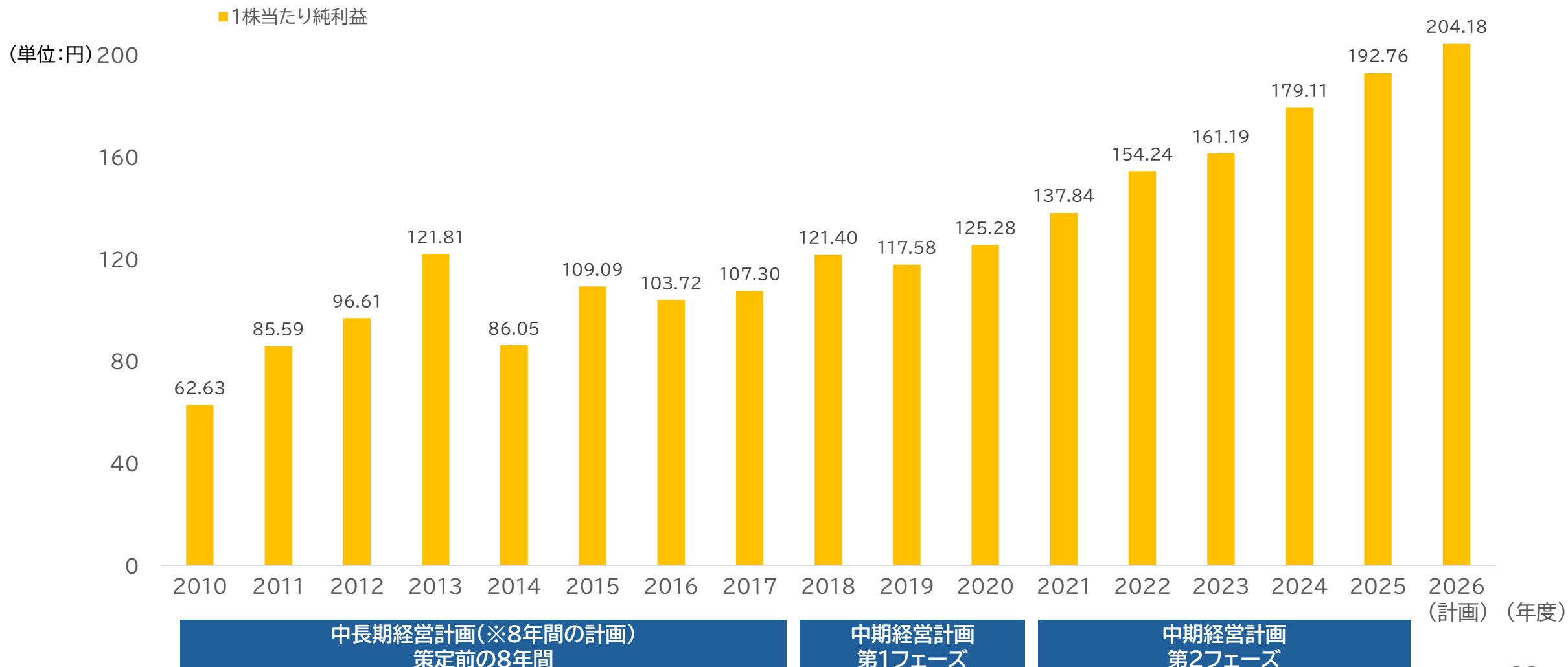


※1996年度に、株式を店頭登録

※2014年度は、同年4月の消費税増税の影響で前期2013年度に駆け込み需要が発生し、減収

1株当たり純利益の推移

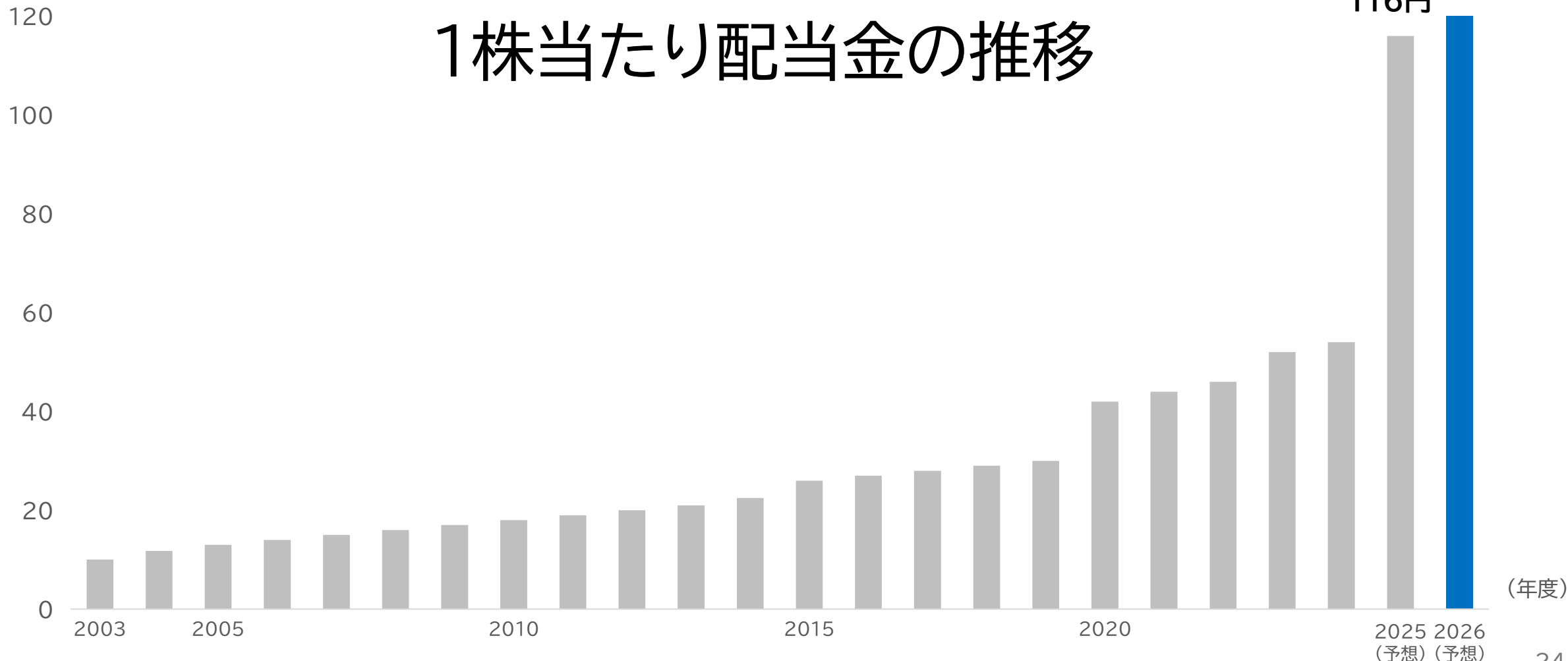
当社の1株当たり純利益の推移は、以下のとおりです。株主様への還元の原資ともなる1株当たり純利益は、以下のとおり増加しており、今後も増加に向けて努め、成長投資と株主還元(2026/3期にて22期連続増配予定)の両立を継続してまいります。



※2026年度は計画値

2025年度は、創立60周年記念配当(年間60円)を含め年間配当116円を予定し、22期連続での増配予定。
2026年度は、普通配当のみで、年間120円を予定。

(単位:円)



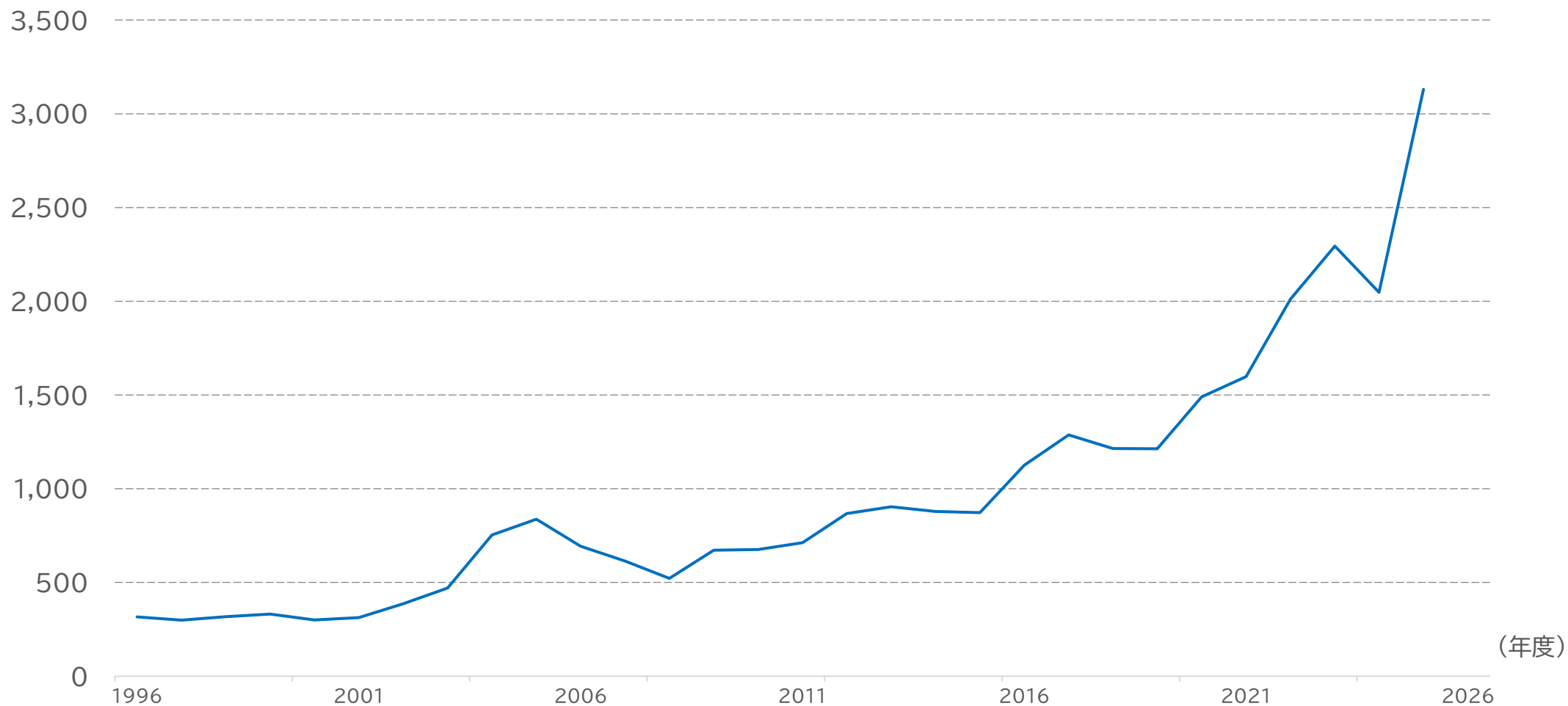
※株式分割の影響を補正しています。

株価推移 (※店頭登録以降の各年度末時点の株価)

着実な業績拡大、連続増配を基軸とする着実な株主還元などを評価頂き、以下の上昇基調の株価推移となっております。

(単位:円)

株価推移 各年度末株価(終値)



企業価値向上に向けた取り組み

・「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」に関する現状の取り組みの整理のほか、機関投資家などみなさまからのよくあるご質問に対するご回答を整理し掲載しております。

<https://www.kohsoku.com/investment/initiatives-to-enhance-corporate-value.html>

IRメール配信サービス

・最新の適時開示等、当社IRに関する情報について、ご登録のメールアドレスにお知らせいたします。

<https://www.kohsoku.com/investment/mail.html>

ディスクレーマー

- ・本資料を作成するに当たっては、正確を期するため慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。
- ・本資料に含まれる将来に関する記載内容は、本資料の作成時点現在において入手可能な情報および仮定に基づいており、実際の業績は、様々な要因により計画と異なる場合があります。
- ・本資料における情報の使用につきましては、各自の判断、責任においてご使用いただくことを、ご了承ください。

本資料について

・本資料において、金額は表示単位未満を切り捨てて表示、%(パーセント)で表示する項目は、表示単位未満を四捨五入して表示しております。

パッケージの専門商社



株式会社 高速

投資家情報 ホームページ

<https://www.kohsoku.com/investment/>